



Kobe Shoin Women's University Repository

Title	日本語母語話者のカタカナ使用についての予備研究 Usage and differentiation of katakana by Japanese native speakers: a pilot study
Author(s)	久津本文・池谷知子 (KUTSUKI Aya・IKEYA Tomoko)
Citation	神戸松蔭女子学院大学研究紀要言語科学研究所篇 Theoretical and applied linguistics at Kobe Shoin , No.16 : 37-50
Issue Date	2013
Resource Type	Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

日本語母語話者のカタカナ使用についての予備研究*

久津木 文[†]・池谷 知子[‡]

神戸松蔭女子学院大学 人間科学部[†]・文学部[‡]

ayakutsuki[at]shoin.ac.jp[†]・tikeya[at]shoin.ac.jp[‡]

Usage and differentiation of *katakana* by Japanese native speakers: a pilot study

KUTSUKI Aya[†]・IKEYA Tomoko[‡]

Kobe Shoin Women's University Faculty of Human Sciences[†]・Faculty of Letters[‡]

Abstract

カタカナ外来語は外国人にとっては、特に難しいものではないと考えられているようであり、書籍や辞書でも特別な扱いはされていない事が殆どである。学習者は、カタカナ外来語が示す意味と原語のものとはズレがあることを気が付いているのか、そして、このズレは習熟によって理解され“正しい”カタカナ語の意味が獲得されるのかについて調べるのが最終的な一連の研究の目的である。しかしながら、そもそも、日本語母語話者のカタカナ外来語とその他の単語の使い分けについての記述や先行研究が殆ど存在しない。本調査の準備として、日本語母語話者のカタカナ外来語の使用についての予備調査の結果を報告する。

There is a general misconception that it is not difficult for foreign learners to grasp katakana words. This misconception has been attributed to the origins of katakana, and, in most cases, it leads to these words not being treated in a special way in textbooks and dictionaries. The final objective of this series of studies is to find out if foreign learners of Japanese are aware of the discrepancies between the meanings of katakana words and the corresponding original English words, also

*この論文は日本私立学校振興共済事業団から平成 24 年度学術研究振興資金援助を受けた「日本語学習者におけるカタカナ外来語の理解についての研究」(研究代表者:久津木文)の調査結果の一部である。この調査では日本語母語話者と英語母語話者について同じような調査を行った。日本語母語話者について久津木が分析し、英語母語話者について池谷が分析した。

if a mastery of Japanese can promote understanding of those discrepancies and the acquisition of the “correct” meanings of katakana words. The present study focused on usage and differentiation of katakana by a small number of Japanese native speakers.

キーワード: 日本語言語習得、カタカナ、意味、用法

Key Words: Japanese as a foreign language, katakana, meaning, usage

1. 問題

カタカナという文字システムのおかげで、日本語は外国の言葉を簡単に取り入れることができる。新しいカタカナ外来語は次々と生まれ流行が終わり、すたれていくものもあれば、定着するものもある。特に定着度が低いものや、まだ定着の過程にあるものについては、日本語を母語とする人間でもその使用や意味の変化のテンポになかなかついていけず、意味が分からないまま使っているものも多くある。このような状況を反映してか、カタカナ外来語についての辞書が数多く出版されており、これは、日本語を母語とする我々自身のカタカナ外来語の意味に対して自信のなさを象徴しているかのようである。

こんな自分たちの状況を棚に上げて、どうしてなのか、カタカナ外来語はもともと外国のものであるから外国の人にはわかりやすいはずだと多くの人は思いこんでいるようである。特に、カタカナ外来語の分類で「第三種」と呼ばれ、日本語の中で処理が終了し、日本語話者の意識を素通りするものとされるもの（例. ラジオ、ノート、ボール等）は、日本語母語話者の間では、コミュニケーション上の障害を生じさせることはほとんどないとされており（山本、2007）、特段わかりにくいものという意識さえ存在しないのかもしれない。特に、相手の母語が英語であればなおさらのようである（モトワニ、1991）。日本語学習者用の辞書や教科書にはカタカナという文字が外来語に使われるという説明とどのように書くのかについての記述が殆どで、カタカナ外来語の意味についての詳細な説明はない。辞書等でみられる定義の多くは、原語（例. 英語）の単語に対応する日本語単語であるという範囲にとどまっているものが多い（例：ポテト＝じゃがいも）。

つまりは、日本語におけるカタカナ外来語は外来語ということで原語（例. 英語）を知っていれば日本語のカタカナ語も分るはずだという前提で教育がなされており教授上の特別な注意が払われていないようである。確かに、他の言語の話者よりも、英語母語話者のほうが、日本語のカタカナ語の意味の推測が得意である場合が多い（小宮、1997）ことが知られているが、同時に、英語から派生したカタカナ外来語を英語と同様に扱い、他の共存する日本語の単語を無視したり、使い分けができない（小林・カケンブッシュ・深田、1991）といった落とし穴も存在する。よって、カタカナは文字そのものよりも、その意味の微妙なズレを学習するのが困難であると考えてよいだろう。

『実家から沢山、ポテトが送られてきてね…』、といった会話を聞いたら日本語母語話者ならずこし奇妙な感じを受けるだろう。なぜなら、日本語が母語である私たちにとってカタカナ語の「ポテト」は「じゃがいも」の下位分類であり、極めて狭い範囲の意味

しかもたないからである。しかし、学習者がカタカナ語は原語の英単語と同じ意味だと思って先の会話を聞いていたら、奇妙だとは感ないかもしれない。つまりは、カタカナ語を本当に理解するためには、カタカナ語化された単語と、原語の単語とには意味にズレがあるということと、日本語には同じ意味範疇を部分的に共有する別の単語があることを知らなければならないのである。

カタカナ語と対応する和語の関係のように、意味が非常に近似している複数の語の違いを理解するにはそれ相応の資料や教授法が必要であると考えられるが、現状ではそのようなものは殆ど存在しない。カタカナ外来語の多くは、既存の日本語単語とは異なる意味をもつ単語として定着していると考えられるが、日本語母語話者自身による実際の使い分けや、原語の単語との意味の違いについての資料が殆どない。

これらのことから、本稿は、大規模調査の準備として、日本語母語話者のカタカナ外来語の使用とカタカナ外来語の許容度について調査を実施したものをまとめ、項目・刺激の選定や調査方法の考案に繋げることを目的としている。

2. 方法

2.1 質問紙の作成

質問紙を用いた調査実施であることから、写真で刺激を呈示する必要があった。そこで、対象となるカタカナ語をまず下記に示した写真で識別が容易な具象名詞 13 個に限定した。

ブラシ、ティー、ドレス、ポット、スリッパ、スカーフ、キャップ、ブーツ、グローブ、ヌードル、ボトル、ポテト、チケット

(太字の事物に対応する事物刺激のセットを表 1¹ (p. 40) にまとめた)。

調査紙の質問項目は 2 部構成であった。A. カタカナ単語と (便宜的且つ作業的定義した) 対応する日本語単語の直観的な違いについての自由記述、及び、B. 事物写真に対してのカタカナ使用に関する項目であった。

B. で使用した事物刺激は、英語及び日本語の辞書、ならびに、日本語学習者用英和辞書の定義 (表 2 (p. 41)) を参考にして、カタカナ語、原語の英単語、そして対応する日本語単語によって表現されることが可能な事物の写真をインターネットで検索し、6 つで 1 組の質問のセットとして用いた (表 1)。例えば、「ボトル」ならば、国語辞典におけるカタカナ語の意味、和語の「瓶」の意味、そして、(英英及び英和辞典の定義を参考にした) 対応する "bottle" の英語での意味を参考にし、それぞれに対応する刺激が 6 つの中に含まれるように心がけた。それぞれの刺激に示される事物に関する質問項目として、まず、普段から回答者が何と呼ぶのかを自由に記述するもの、そして、各事物に対して設定したターゲットカタカナの語を用いるかどうか、つまりは、カタカナ語の許容度をリカー

¹実際に調査に用いた図はカラーであり、用途や機能が分かりにくいものには説明を添えた。例) ticket の 1 の場合、「交通違反でもらう」。

ト法(1. まったく使わない、2. どちらかというに使わない、3. どちらかというを使う、4. 常に使う)を用いて尋ねた。

表 1: 使用した刺激一覧 (抜粋)

刺激種類	1	2	3	4	5	6
1 "bottle" 刺激						
2 "brush" 刺激						
3 "cap" 刺激						
4 "glove" 刺激						
5 "potato" 刺激						
6 "pot" 刺激						
7 "tea" 刺激						
8 "ticket" 刺激						

2.2 対象

K 市にある女子大に所属する学生 32 名を対象にカタカナ単語の使用についてのアンケートを協力の承諾を得て実施した。カタカナ使用は世代や性別により違いがある可能性があるため一般的な大学生の年齢からかけ離れているものや、大学院生の男性の回答は分析対象から外した。全項目数からみた回答率が 80% に満たないものを分析対象外とした。最終的な分析対象数は $N = 23$ であった。²

3. 結果

先述した 13 のカタカナ語の中で、太字で示した単語以外は分析対象外とし、8 つの単語について分析を行った。対象外となったのは、事物刺激の写真がわかりにくく、協力

²項目によって欠損があるため数が異なる。

表 2: カタカナ外来語と原語の単語の辞書的定義の一覧

カタカナ語	カタカナ語の辞書定義		英単語	英単語の辞書定義	
	岩波国語辞典(第7版)	新明解国語辞典(第7版)		Oxford Dictionary of English (第3版)	研究社ふりがな英和辞典(第2版)
ボトル	瓶、とくに洋酒の瓶。	瓶	bottle	A glass or plastic container with a narrow neck, used for storing drinks or other liquids.	瓶、とっくり、酒、哺乳瓶
ブラシ	刷毛	はけ	brush	An implement with a handle and a block of bristles, hair, or wire, used especially for cleaning, applying a liquid or powder to a surface or arranging the hair.	刷毛、ブラシ、毛筆、画筆
キャップ	ハットに対し、つばのない帽子。	運動するときなどにかぶる、ふちの無い帽子。	cap	A kind of soft, flat hat without a brim and typically with a peak	(縁無し)帽子、制帽
グローブ	野球またはボクシング用の革製手袋。	1.ボクシング選手の選手が使う、革製の袋。2.(野球で)捕手・一塁手以外の野手が使う、革製の捕球用具。	gloves	A covering for the hand worn for protection against cold or dirt and typically having separate parts for each finger and the thumb.	手袋; (野球・ボクシング用)グラブ、グローブ
ポット	深くて丸型の容器。注ぎ口のある湯沸し。魔法瓶。西洋料理用の深鍋。土製やプラスチック製の、植物を育てる鉢。	1.コーヒー・紅茶を入れるための、つぎ口・取っ手の付いた、つぼ形の容器。2.魔法瓶。	pot	1. A rounded or cylindrical container, typically of metal, used for cooking. Any of various containers made for a particular purpose.	つぼ、かめ、鉢、瓶、ポット; 深鍋
ポテト	じゃがいも	じゃがいも	potato	A starchy plant tuber which is one of the most important food crops.	ジャガイモ
ティー	お茶、おにも紅茶。	1.紅茶、2.(飲料としての)茶	tea	A hot drink made by infusing the dried crushed leaves of the tea plant in boiling water.	お茶(飲料)、(茶に似た)せんじ汁; ティー、午後のお茶
チケット	入場券・乗車券・回数券など、切符。	チケット=乗車券・入場券・食券・預り証等の証拠となる紙片。	ticket	A piece of paper or card that gives the holder a certain right, especially to enter a place, travel by public transport or participate in an event.	切符、乗車券、入場券; 札、等

者の回答が想定したものとかげ離れていたものや、ターゲットとして設定したカタカナ語と刺激と適合性が低いものであった。

3.1 直観的判断の回答の分析

各カタカナ語とその原語の単語が示す範囲にある代表的な日本語の単語（非カタカナ語）及び各カタカナ語の原語の英語を英和辞書で調べると出てくる日本語の語（表2）を主に中心に和語（非カタカナ語）を一つ選択した。もちろん他の日本語単語との対応もあり得るがこの項目では、一つに絞り、ターゲットカタカナ語と和語（非カタカナ語）との間に意味の違いがあるかの直観的な判断を調べた。違いがある場合は具体的にどのようなものについてそれぞれを使い分けられているかを自由記述させた。意味の違いの有無の回答の度数を正確二項検定を用いて比較した。表3 (p. 42) 参照。

差があると判断した数が有意に多いのは「ブラシと筆」と「ポットと急須」の組み合わせのみであり、一方で、「チケットと券」の組み合わせでは違いが無いと判断する人が有意に多いことが判明した。その他の語の組み合わせについては、それぞれを違い有り・違い無しと判断した人数に有意な違いがなかった。これら二つの組み合わせは和語が「和風」、カタカナ語が「洋風」なもの強い結びつきをもっているものであり、対比が容易であったのであろう。

表 3: 直観的判断によるカタカナ語と対応する和語の使い分け

	単語組み合わせ	意味違い有	意味違い無
1	キャップ vs. 帽子	7	9
2	ボトル vs. 瓶	11	7
3	ブラシ vs. 筆	20**	2
4	グローブ vs. 手袋	13	6
5	ポット vs. 急須	14*	3
6	ポテト vs. いも	7	11
7	ティー vs. 茶	11	10
8	チケット vs. 券	1	16**

($p < .05^*$, $p < .01^{**}$)

3.2 自由記述の回答の分析

表 1 に示した各事物刺激をどのように普段表現するかを自由に回答してもらった。自由記述方式であり表現の自由度が高かったため、複合名詞的な表現や、修飾部が用いられているものがあつたが、主の名詞の部分に基づいて集計を行った。つまり、自由記述の回答として「レモンティー」とあつたら、メインの名詞を修飾する部分は無視して「ティー」として集計した。同じように、「水泳帽」のように省略形で使われているものも、本来の名詞のかたちに、たとえばこの場合は「帽子」として扱った。単純な名詞のかたちにして集計したものをカタカナ語または非カタカナ語³とに分類し、それぞれの事物刺激を自由に表現する際にカタカナ語選好、または、非カタカナ語選好があるのかを正確二項検定を用いて調べた。その結果を表 4~11 として示す。

3.2.1 “bottle” 刺激

刺激 4 を除き、その他の刺激についてはどちらかに選好が偏っていた。刺激 1, 2, 及び 6 については、カタカナ語の回答が有意に多いことが判明した。内訳をみてもわかるようにカタカナ語総数と「ボトル」の度数がいずれの場合一致しており、これらのケースにおいて「ボトル」というカタカナ語が有意に選択されていることがわかる。これらは全て、プラスチック製の容器であり、日常生活に導入されたのが比較的新しいものであると判断できる。これに対して、非カタカナ語が選好されたものは、3 や 5 の事物で、和語でいう「瓶」と意味的に対応する事物であつた。これらについては、液体などを入れる容器という特徴はもっているものの、「ボトル」とは表現されないようである。

4 に対する反応は安定していないようにみえる。4 はワインボトルもしくはワインの瓶であり、カタカナ語表現と非カタカナ語表現（この場合は内訳から瓶 vs. ボトルの対比であることがわかる）との間に有意な差はない。ガラス製であり液体を入れる容器である

³ 「カタカナ語」として表現されないものは一般的には「和語」であるが、「漢語」もありうるため、ここでは「非カタカナ語」という用語を用いる。

この事物に対しての判断は人によって異なり、安定した傾向はないようである。

表 4: “bottle” 刺激に対するカタカナ語の使用

"bottle" 刺激種類	1	2	3	4	5	6
a 非カタカナ語全体数	0	4	18**	13	19**	2
非カタカナ語【内訳】		すいとう (2) いれもの (1) ようき (1)	びん (18)	びん (13)	びん (17) いれもの (2)	いれもの (1) ようき (1)
b カタカナ語全体数	21**	17**	1	8	3	20**
カタカナ語【内訳】	ボトル (21)	ボトル (17)	ボトル (1)	ボトル (8)	ボトル (2) ポット (1)	ボトル (20)

aとbの度数比較には正確二項検定(binominal test)を用いた。

p<.05*, p<.01**

3.2.2 “brush” 刺激

ここまでの一連の刺激と同じように、“brush” 刺激のセットについても、どちらか一方に表現のタイプが偏ることがわかる。語の種類は様々であったが、1, 2, 5, 6 は全て、非カタカナ語型の表現が選好された。3 の<歯ブラシ>のみ、ほかに表現がないためか、完全なカタカナ語選好がみられた。4 については、選好に有意な偏りがみられないが、非カタカナ語の内訳をみるとわかるように、ブラシを<くし>だと判断しているケースが多く、事物の写真の鮮明度に問題があったかと思われる。

表 5: “brush” 刺激に対するカタカナ語の使用

"brush" 刺激種類	1	2	3	4	5	6
a 非カタカナ語全体数	18**	23**	0	7	15**	23**
非カタカナ語【内訳】	はけ (14) ふで (3) へら (1)	ふで (23)		<くし> (7)	はけ (12) ふで (3)	ふで (23)
b カタカナ語全体数	5	0	23**	16	7	0
カタカナ語【内訳】	ブラシ (5)		ブラシ (23)	ブラシ (15) コーム 1	ブラシ (7)	

aとbの度数比較には正確二項検定(binominal test)を用いた。

p<.05*, p<.01**

3.2.3 “cap” 刺激

刺激 1, 5, 及び 6 に対しての選好の有意な偏りは見られなかったが、それ以外に対しては、どちらかに有意に偏っていた。2 の<野球用の帽子>については、有意に「キャップ」の表現を使う人が多く、その一方で、3 の<ニット製の帽子>や、4 の学帽は「帽子」型の表現を使う傾向が高い。回答の傾向としてどちらもありえると考えられるのは、1, 5, 及び 6 であり、これらについては、カタカナ型及び非カタカナ型の双方が使われるようである。

表 6: “cap” 刺激に対するカタカナ語の使用

"cap"刺激種類	1	2	3	4	5	6
a 非カタカナ語全体数	7	3	20**	16**	10	13
非カタカナ語【内訳】	ぼうし (7)	ぼうし (3)	ぼうし (20)	ぼうし (16)	ぼうし (10)	ぼうし (13)
b カタカナ全体数	16	20**	2	0	13	10
カタカナ語【内訳】	ハット (16)	キャップ (20)	キャップ (2)		キャップ (13)	キャップ (4) ハンチング (6)

aとbの度数比較には正確二項検定(binominal test)を用いた。

p<05*, p<01**

3.2.4 “glove” 刺激

この一連の刺激に対する反応も他のセットと同じく、どちらかに有意に偏っていた。非カタカナ語的なものとして表現されたのは、1, 2, 5, 及び6であり、1は軍手という他とは独立した表現が用いられたケースが多いものの、その他のものについては、「てぶくろ」型の表現が用いられていた。3, 4 に対しては、完全にカタカナ語選好がみられ、いずれもスポーツ競技に使う特殊な手の装具として、外来語である「グローブ」が定着していることがわかる。

表 7: “glove” 刺激に対するカタカナ語の使用

"glove"刺激種類	1	2	3	4	5	6
a 非カタカナ語全体数	23**	20**	0	0	22**	21**
非カタカナ語【内訳】	ぐんて (20) てぶくろ (3)	てぶくろ (20)			てぶくろ (22)	てぶくろ (21)
b カタカナ全体数	0	3	23**	22**	1	2
カタカナ語【内訳】		グローブ (3)	グローブ (23)	グローブ (22)	グローブ (1)	ミトン (2)

aとbの度数比較には正確二項検定(binominal test)を用いた。

p<05*, p<01**

3.2.5 “potato” 刺激

この刺激に関しても他の刺激セットと同様の傾向がみられた。つまり、カタカナ語と非カタカナ語の選好のどちらかに偏り中間のものは、ほぼなかった。非カタカナ語が選好されたものとしては、1, 2, 3, そして4 といった、調理済みのじゃがいもや材料としての芋類であった。これに対して、5のみで完全なカタカナ語選好がみとめられた。4はどちらにも偏りが無い結果となったが、図の鮮明度及び説明が不足していたため、判断が困難であったためだと考えられる。

表 8: “potato” 刺激に対するカタカナ語の使用

"potato"刺激種類	1	2	3	4	5	6
a 非カタカナ語全体数	23**	22**	23**	7	0	21**
非カタカナ語【内訳】	いも (23)	いも (21)	いも (23)	いも (7)		いも (21)
b カタカナ全体数	0	1	0	15	23**	2
カタカナ語【内訳】		ポテト (1)		ポテト (15)	ポテト (23)	ポテト (2)

aとbの度数比較には正確二項検定(binominal test)を用いた。

p<0.05*, p<0.01**

3.2.6 “pot” 刺激

この刺激に関しても、他のものと同様の傾向がみられた。3,5,6のような電気製品及び西洋風の食器については、外来語であるカタカナ語が有意に選好されていた。これに対して、5と同じ役割を果たすが日本文化的な1に対しては、真逆の傾向がみられる。2及び4については、非日本語表現が好まれていた。「ポット」の意味には、植木鉢、寸胴鍋のようなものが原語の英語及び国語辞典の定義で含まれているものの、より英語寄りの意味であるようで日本語としては、浸透していないことがわかる。

表 9: “pot” 刺激に対するカタカナ語の使用

"pot"刺激種類	1	2	3	4	5	6
a 非カタカナ語全体数	23**	15*	0	22**	2	0
非カタカナ語【内訳】	きゅうず (22) やかん (1)	はち (14) いれもの (1)		なべ (22)	きゅうず (2)	
b カタカナ全体数	0	4	22**	0	20**	22**
カタカナ語【内訳】		ポット (3) ブレンダー (1)	ポット (18) ケトル (4)		ポット (20)	ポット (22)

aとbの度数比較には正確二項検定(binominal test)を用いた。

p<0.05*, p<0.01**

3.2.7 “tea” 刺激

4の刺激のみ偏りに差がなく、それ以外はどちらかに偏る結果を得た。他の刺激同様に、より非カタカナ語と判断されたのは、日本的なもの2及び6であり、これに対して、<紅茶を冷やしたもの>や(3), <レモン入りのもの>(1), <ミルク入りのもの>(5)はカタカナ語でより表現されることがわかった。これは、紅茶が外国的なものであるからだともいえるが、同時に、かなり日本文化に定着したものであるため、そのタイプによって、呼び方が変化するのではないかと思われる。事実、4の<温かい紅茶>については、非カタカナ語選好であり、紅茶の中で意味のヒエラルキーの存在が示唆される。つまり、

茶→紅茶→さまざまなタイプのお茶=ティーといった具合である。

表 10: “tea” 刺激に対するカタカナ語の使用

“tea” 刺激種類	1	2	3	4	5	6
a 非カタカナ語全体数	4	23**	4	16	1	23**
非カタカナ語【内訳】	ちゃ (4)	ちゃ (23)	ちゃ (4)	ちゃ (16)	ちゃ (1)	ちゃ (23)
b カタカナ語全体数	19**	0	19**	7	22**	0
カタカナ語【内訳】	ティー (19)		ティー (19)	ティー (7)	ティー (22)	

aとbの度数比較には正確二項検定(binominal test)を用いた。

p<0.05*, p<0.01**

3.2.8 “ticket” 刺激

6の刺激以外は、どちらかに偏っているパターンを示した。より非カタカナ語型を使って表現されたのは、1, 2, 4, 及び5であり、これらの外来語を使って呼ぶ習慣がほとんどないことがわかった。これに対して、3の<コンサートのチケット>については、完全なカタカナ語選好がみられ、英語の ticket の意味のなかでも極一部の意味のみが日本語のチケットとして使われていることが示唆された。6<飛行機用>については、人によって揺らぎがあるようである。先の<ワインの瓶・ボトル>のような結果と類似しており、中間型と呼べるだろう。

表 11: “ticket” 刺激に対するカタカナ語の使用

“ticket” 刺激種類	1	2	3	4	5	6
a 非カタカナ語全体数	15**	21**	2	23**	20**	6
非カタカナ語【内訳】	きっぷ (11) けん (4)	けん (21)	けん (2)	きっぷ (19) けん (4)	<じ> (15) けん (5)	けん (6)
b カタカナ語全体数	3	2	20**	0	3	17
カタカナ語【内訳】	チケット (2) カード (1)	カード (1) チケット (1)	チケット (20)		チケット (2) ロト (1)	チケット (17)

aとbの度数比較には正確二項検定(binominal test)を用いた。

p<0.05*, p<0.01**

3.3 カタカナ語許容度

3.2では、自由記述をもとに、カタカナ単語の使用傾向を確かめた。ここでは、同じ一連の事物刺激に対し、刺激名称の英単語に対応するターゲットカタカナ語を用いて表現するかについて次の1~4(1まったく「XX」を使わない、2どちらかという「XX」を使わない、3どちらかという「XX」を使う、4常に「XX」を使う)の中から1つを強制的に選択させた。刺激毎に、ターゲットカタカナの許容度に違いがあるかについて一

標本の *t* 検定を用いて調べた。各刺激の許容度の得点と、検定結果を表 12 にまとめた。許容度の得点の最大値は 3 点であるため、中央値の 1.5 点を基準とし、これより大きいほどターゲットカタカナが許容されていると判断される。

表 12: 各刺激におけるターゲットカタカナ語許容度の平均

刺激種類	N	平均値	S.D.	刺激種類	N	平均値	S.D.	刺激種類	N	平均値	S.D.	刺激種類	N	平均値	S.D.		
"bottle"	1	2.78	**	0.42	"brush"	1	2.3	0.70	**	1.11	"cap"	1	2.3	0.17	**	0.49	
	2	2.18	**	1.14		2	2.3	0.04	**	0.21		2	2.3	2.61	**	0.72	
	3	2.27	**	0.63		3	2.3	2.87	**	0.34		3	2.2	0.41	**	0.80	
	4	2.3	1.26	n.s.	1.25		4	2.3	2.26	**	1.05		4	2.2	0.18	**	0.50
	5	2.2	0.36	**	0.85		5	2.3	0.91	*	1.28		5	2.3	2.17	**	1.03
	6	2.2	2.36	**	0.79		6	2.3	0.13	**	0.46		6	2.3	0.83	**	1.11
"potato"	1	2.3	0.57	**	0.84	"pot"	1	2.3	0.13	**	0.46	"tea"	1	2.3	2.43	**	1.04
	2	2.2	0.55	**	0.86		2	2.1	0.62	**	1.02		2	2.3	0.17	**	0.49
	3	2.3	0.26	**	0.54		3	2.3	2.00	n.s.	1.31		3	2.3	2.61	**	0.78
	4	2.3	1.83	n.s.	1.23		4	2.3	0.04	**	0.21		4	2.3	1.65	n.s.	1.23
	5	2.3	2.78	**	0.42		5	2.3	2.13	*	1.14		5	2.3	2.78	**	0.42
	6	2.3	0.35	**	0.78		6	2.3	2.57	**	0.90		6	2.3	0.35	**	0.65
												"ticket"	1	2.1	0.62	**	0.86
													2	2.3	0.65	**	0.88
													3	2.3	2.61	**	0.84
													4	2.3	0.22	**	0.52
													5	2.3	0.39	**	0.66
													6	2.3	0.70	**	0.97

p<0.05*, p<0.01**

3.3.1 “ボトル”の許容度

自由記述の分析結果と同様、刺激 1,2,6 に対しては「ボトル」が有意に許容され、反対に 3,5, といった<ガラス製の入れ物>に対しては「ボトル」が有意に許容されないことが判明した。4 の<ワインの瓶・ボトル>刺激は、自由記述同様、判断が分かれるようであり、許容度に有意な偏りが無いことが判明した。ここでも、完全にカタカナ的なものと、非カタカナ（和語）であるもの、そして、中間的なものの三つに分類された。

3.3.2 “ブラシ”の許容度

全ての刺激において、有意な差が認められた。その傾向は、自由記述の分析結果と似ている。刺激 1,2,5,6 は許容度が有意に低い、つまりターゲットカタカナは使用できないと判断された。これに対して、3 及び 4 は有意にターゲットカタカナを使用してもよいと判断された。4 については、自由記述の分析において、写真が不明瞭なためか、<くし>と判断する場合が多く、有意差がなかったのだがここでは、「ブラシ」というカタカナ語を呈示しての判断であった為、異なる結果が得られた。

3.3.3 “キャップ”の許容度

刺激 2 及び 5 に対して、許容度が有意に高いことが判明し、その他の刺激に対しては有意に低いことが判明した。この結果は、自由記述の分析結果と異なる。自由記述では、1,5, 及び 6 において、選好に有意差がなかったのだが、許容度の分析においては、1 及び 6 はより「キャップ」ではないと判断され、5 は、より「キャップ」を使用すると判断された。1 及び 6 については、自由記述のカタカナ語の内訳にもみられるように、「キャップ」以外のカタカナ語が使用されており、「キャップ」は許容されない。そもそも、1 は

探索的に日本語の「帽子」との関連で使用した刺激であり、「キャップ」はターゲットカタカナとしては適当ではなかった。

3.3.4 “グローブ”の許容度

自由記述の分析結果と非常に似た結果を得た。刺激 1,2, 及び 6 は、より「グローブ」を使用する対象ではないと判断され、3 及び 4 は、「グローブ」と呼ぶ対象と判断された。完全な、使用の区別が認められた。

3.3.5 “ポット”の許容度

この課題の結果も、自由記述の結果と部分的に類似していた。刺激 1,2, 及び 4 に対しては、より「ポット」は使わないと判断されていることが判明した。刺激 5 及び 6 は有意に「ポット」が許容されていたが、3 については、有意差がなかった。3 は、自由記述のカタカナ語内訳をみると、「ケトル」が用いられており、この対象については、カタカナが選好されるが、「ポット」ではないと判断されたのだと考えられ、ターゲットカタカナに問題あった。

3.3.6 “ポテト”の許容度

この刺激についても、自由記述の分析と類似した結果が得られた。刺激 5 のみが、より「ポテト」と呼ぶ対象と判断され、1,2,3, 及び 6 は、そう呼ばない対象として判断されていた。刺激 4 については、得点の有意な差が認められず、自由記述の結果からも、何か判断がつかなかった可能性が高い。課題の改良が必要とされるが、その他については、完全な使用の区別がここでも示唆された。

3.3.7 “ティー”の許容度

自由記述の分析結果では、全ての刺激はカタカナ語または非カタカナ語のどちらかに分類されることが判明していたが、ここでも、1,3, 及び 5 は、より「ティー」を使用してもよいと判断され、2 及び 6 は、より許容度が低いことがわかった。4 の〈暖かい紅茶〉の刺激に対してのみ、「ティー」の許容度得点に有意差がなく、自由記述の分析の結果を加味すると、「ティー」を使用するかどうかの判断に個人差がある中間型であることがここでも示唆された。

3.3.8 “チケット”の許容度

3 の〈コンサート用〉のみにおいて、有意に「チケット」が許容され、その他の 1,2,4, 及び 5 については、有意に許容されないことが判明した。5 の〈飛行機用〉は、自由記述では中間型とされていたが、許容度の得点は低いことがわかる。

4. 考察

本研究では、予備調査として日本語母語話者を対象にカタカナ外来語の使用についての調査を試みた。その結果、やはり、日本語におけるカタカナ外来語は単純に原語の英

単語とは対応していないケースがほとんどであり、使用は、意識的ではないもののほぼ完全に区別されていることが示唆された。

具体的には、以下のような結果を各分析で得ている。対応する和語との違いを文字を見ただけで、直感的に判断させる課題においては、「ブラシと筆」、そして、「ポットと急須」といった2つの課題においてのみ、違いが有ると判断され、「チケットと券」では、違いが無いと直感的には判断されていることが判明した。その他の組み合わせでは、人によって判断が異なっており、統一した見解が得られなかった。しかし、実際に、事物写真の刺激に対しての自由記述を分析すると、大半の刺激において、カタカナ語・非カタカナ語の使用の区別は明確に分かれており、自然な使用において完全な区別がされていることが示唆された。さらに、設定したターゲットカタカナ語の許容度の分析から、先の結果とほぼ同様に、ほとんどの刺激について、許容度が非常に高いものと低いものに二分されることが判明した。

つまり、日本語母語話者にとって、どのような事物に対してカタカナ語を使うかを説明したり、定義するのは多くの場合、困難であるが、事物をみて命名や判断をする際には、明確な使い分けが共通にみられることが示された。これは、調査を行う前から、そして恐らく誰もカタカナ語は対応する日本語単語とはなんらか違うという感覚を確認したものであり、語の意味の体系としても自然なものである。しかし、日本語母語話者の中で完全に棲み分けが起こっているカタカナ語と和語を具体的に確認したことにより、これらの項目を用いて英語母語話者や他の母語話者の反応との比較が可能となる。

さらに、この調査では、項目作成時に予期していなかった曖昧なカテゴリーが存在することが示された。「ボトル」、「チケット」、「キャップ」のように、一部、完全な使い分けがされていない中間型のケースが確認された。山田(2007)のカタカナのタイプからすれば、これらの単語は特段わかりにくいものでもなく、意識を素通りするものであり、日本語としての処理が終了している外来語である「第三種」だと呼べるので特に興味深い存在である。陣内(1993)は、「さじ」と「スプーン」の使用を調査しており、世代によって使用が異なることを示唆している。おそらく、このような中間型の単語をどのように用いるか、そして判断するかは、世代、流行、英語との接触によって異なる可能性が高く、日本語母語話者および学習者における英語の影響を見極めるのに有効な項目となるだろう。一部、対応する日本語として設定した単語や刺激が不相応である項目も判明した。これらの点を踏まえ、学習者と母語話者のカタカナ語使用について比較可能な調査項目・方法を考案していきたい。

文献

- 小林 ミナ・カケンブッシュ ヒロコ・深田 淳(1991). 外来語にみられる日本語化規則の習得—英語話者の調査に基づいて(特集：外来語と日本語教育) 日本語教育, 74, 48–59.
- 小宮修太郎(1997). 学習者の出身国別に見た外来語の理解度に関する比較考察 筑波大学留学生センター日本語教育論集, 12, 43–62.

陣内正敬 (1993). 「さじ」と「スプーン」: 外来語化と命名のゆれ 言語文化論究, 4, 47-54.

モトワニ プレム (1991). 日本語教育のネック—外来語 日本語教育, 74, 28-32.

山本雄一郎 (2007). 現代のコミュニケーションと外来語 (特集: 外来語大解剖), 言語, 36, 6, 22-29.

Author's web site: <http://www.shoin.ac.jp/>

(受付日: 2013.1.10)